

第22節

बर्हायिते ते नयने नराणां
लिंगानि विष्णोर्न निरीक्षतो ये ।
पादौ नृणां तौ द्रुमजन्मभाजौ
क्षेत्राणि नानुव्रजतो हरेर्यौ ॥ २२ ॥

*barhāyite te nayane narāṇām
liṅgāni viṣṇor na nirikṣato ye
pādau nṛṇām tau druma-janma-bhājau
kṣetrāṇi nānuvrajato harer yau*

barhāyite—クジャクの羽根飾り; *te*—それら; *nayane*—目; *narāṇām*—人間の; *liṅgāni*—姿;
viṣṇoḥ—人格主神の; *na*—～しない; *nirikṣataḥ*—～を見つめる; *ye*—そのようなものすべて;
pādau—足; *nṛṇām*—人間の; *tau*—それら; *druma-janma*—木として生まれて; *bhājau*—そのよ
うなもの; *kṣetrāṇi*—聖地; *na*—決して～ない; *anuvrajataḥ*—～を求める; *hareḥ*—主の; *yau*—
～であるもの。

人格主神ヴィシュヌの象徴（主の姿、名前、質など）を見ない目は、クジャクの羽に
刻まれた目の模様、そして聖なる場所（主を思いだせる場所）に行こうとしない足は、
木の幹にすぎない、とされています。

要旨解説

世帯を持つ献愛者には、神像の崇拝が特に勧められています。できるかぎり、世帯者な
ら精神指導者に導かれてヴィシュヌの神像を、たとえばラーダー・クリシュナ、ラクシュ
ミー・ナーラーヤナ、特にシーター・ラーマの神像を家庭に据えつけるべきです。あるい
はヴァイシュナヴァ・タントラやプラーナに勧められているように、主のほかの姿、たと
えばヌリシンハ、ヴァラーハ、ゴウラ・ニターイ、マトウツシャ、クールマ、シャーラグ
ラーマ・シラー、他のヴィシュの姿、たとえばトゥリヴィクラマ、ケーシャヴァ、アチュ
タ、ヴァースデーヴァ、ナーラーヤナ、ダーモーダラなど多くの姿の神像を据えつけ、家
族こぞってアルチャナ・ヴィディ (*arcana-vidhi*) の指示や規則に厳格に従いながら崇拝し
なくてはなりません。そして12歳以上になれば正しい精神指導者から入門式を受け、家族
全員で主への日々の奉仕をします。それは、朝4時から夜10時まで続き、マンガラ・アー

ラートウリカ、ニランジャナ、アルチャナ、プージャー、キールタナ、シュリンガーラ、ボーガ・ヴァイカーリ、サンダー・アーラートウリカ、パータ、ボーガ（夜）、シャヤナ・アーラートウリカなど、と続きます。正しい精神指導者に導かれたそのような神像崇拜が、家族そのものを清め、精神的知識の道を速やかに進む助けになります。理論だけを説く本の知識は、初心の献愛者には充分ではありません。本の知識は理論にすぎませんが、アルチャナの方法は実践的です。精神的知識は、理論と実践を並行させて高めるべきもので、それこそが精神的完成を得る保証された方法です。初心の献愛者が実践する献愛奉仕の訓練は、弟子をふるさとに、神のもとに徐々に導く方法を知る熟達した精神指導者にかかっています。また精神指導者も、自分の家族を養うために仕事とするような偽物になってはいけません。弟子を「差し迫った死」という危機から救える熟達した精神指導者になるべきです。シュリーラ・ヴィシュヴァナータ・チャクラヴァルティー・タークラが、精神指導者の正しい質について次のように定義しています。

*śrī-vigrahārādhana-nitya-nānā-
śṛṅgāra-tan-mandira-mārjanādau
yuktasya bhaktāṁś ca niyuñjato 'pi
vande guroḥ śrī-caraṇāravindam*

Śrī-vigraha (シュリー・ヴィグラハ) はアルチャー (*arcā*)、すなわち崇拜するにふさわしい主の姿で、弟子は、*śṛṅgāra* (シュリンガーラ)、適切な装飾品や衣服、そして *mandira-mārjana* (マンディラ・マールジャナ) 「寺院の清掃」をとおして神像を定期的に崇拜しなくてはなりません。精神指導者はこの方法を初心の弟子たちに、優しく、そしてじかに教え、主の超越的な名前・質・姿などを徐々に悟れるように導きます。

特に音楽をともなったキールタナや経典の精神的教えに支えられた寺院での着付けや飾りをとおして、主への奉仕に集中することだけが、不快な映画やラジオから流れてくる無意味なセックス・ソングに対する魅力から私たちを救うことができます。家庭に寺院を用意できなければ、上記のプログラムが定期的に行なわれている寺院に行きましょう。献愛者の寺院を訪ねたり、巧みに、そして豪華に飾られた神聖な寺院での主の姿を見つめたりすれば、自然に、俗な心は精神的な感情に満たされていきます。ですから、寺院や神像崇拜が特に行なわれているヴリンダーヴァナのような聖地を訪ねるべきです。以前は、国王や裕福な商人が、6人のゴースヴァーミーたちのような熟達した献愛者の指導を受けて寺院を建立しており、一般人はその寺院を訪ねたり、偉大な献愛者たち (アヌヴラジャ) の足跡に従って行なわれる祭典に参加したりするのが義務でした。しかし観光気分で神聖な場所や寺院を訪ねるのはもってのほか。主の超越的な娯楽によって不死の場所になった聖

地や寺院は、この科学をよく知っている正しい人物に導かれなくてはなりません。このことを *anuvraja*・アヌブラジャといいます。Anu (アヌ) は「従うこと」という意味です。ですから寺院や神聖な巡礼地に行くときでも、正しい精神指導者の教えにどうしても従うべきです。そのように行動しない人は、「動くな」と主から罰せられた木と同じです。動く、という人間の特質は、観光地を訪ねるという行為でまちがって使われてしまいます。旅行を好む気質は、偉大なアーチャーリヤたちが築いた聖地を訪ねることで満たされますし、そうすることで、精神的知識のことをまったく知らない拝金主義者の無神論的な宣伝にまちがって導かれることもありません。